



クリスマスにメロディの花束を

石田衣良

今年も一年、おつかれさまでした。

あなたにとって2021年はどんな年になりましたか？ いい年、まあまあ、それともいまひとつの年だったかもしれません。

けれどすべての人に時は等しく流れ、いよいよ年の瀬を飾る聖なる一日がやってきました。この壮麗なホールに、どんなお洒落をしてあなたはやってきましたか。『のだめカンタービレ』ではありませんが、これから素敵な「音楽の時間」が始まります。クリスマスの静かな午後をクラシック音楽のなかでも、選り抜きの美しいメロディの花束を胸に抱え、うっとり優雅に過ごしてください。

ぼくたち日本人はついつい頑張り過ぎてしまう癖があります。なにをするにももっと完璧に、よりよい結果をだそう。会社でも家庭でも緊張の日々の連続です。そのうえ、シャイなのでお互いをねぎらったり、ほめたりするのが苦手なところがあります。この文章をお読みのあなたも、残念ながら、この一年間よく頑張ったね、どうもありがとうと誰かに感謝された経験が、例年のようにあまりなかったはずです。

そんなときこそ、音楽の力を思い出してください。音楽はうれしい気持ちを華やかに盛りあげ、喜びはさらに空高く羽ばたかせてくれます。避けられない悲しみの時間にも、そっとそばに寄り添い、押しつけがましさのない優しい力で、心のしこりを解きほぐし慰めてくれる。痛みとともに心に刻まれた傷さえ、美しいなにかに結晶化させてくれるのです。音楽は作曲家や指揮者・演奏家の芸術表現であるだけでなく、その本質に人の心を整え、強く優しくしてくれる独特の治癒力が流れていると、ぼくは思います。





本日のコンサートに選ばれた演目にもその力は生きいきと働いています。

アメリカのミュージカル音楽の影響が色濃いバーンスタインの『キャンディード』序曲には、新大陸ならではの明るさ、賑やかさ、ユーモアがあふれています。ヘンデルの『水上の音楽』は王さまの川遊びのためにつくられた、クリスマスにはちょっと季節外れな機会音楽ですが、バロック特有の格調の高さと軽快さのバランスが見事です。グノーの「トロイの娘たちの踊り」は、なにより主旋律を奏でる弦楽の柔らかな響きが印象的。平原綾香さんのヒット曲『Jupiter』で有名なホルストの『惑星』は、作曲家の名を一躍音楽史に刻むことになった二十世紀管弦楽の名曲です。天文学の知見から太陽系の各惑星を描いたものではなく、星占いにあるそれぞれの星の性格を描いた作品という、占い好きな女性に興味をもってもらえるかもしれません。

コンサートの白眉となるのはチャイコフスキー作『くるみ割り人形』です。ドストエフスキーやゴーゴリのように苦悩する魂の深さ、偉大さでロシア芸術は名高いのですが、このバレエ音楽はまるでタイプが違います。ニュース番組で流れるモスクワ赤の広場の映像を思いだしてください。色とりどりの塔や建物が子どもたちの夢の都のように広がるロシアの首都の愛すべき光景です。あの「キュートさ」もロシア文化のもうひとつの特徴なのです。大のモーツァルト崇拝者であったチャイコフスキーにも、その血脈は流れています。かわいいチャイコフスキーがさらに気になるようなら、『弦楽セレナード』や『ロココの主題による変奏曲』を、ぜひどうぞ。トリをとるのはお馴染みラヴェルの『ボレロ』です。スイス製の精密な機械式腕時計のようなこの曲には、催眠術のような不思議な魅力と、最後にやってくる突然の崩壊のカタルシスがあります。

ぜひ、みなさんの盛大な拍手でコンサートを締めくくってください。

この二年間、しつこい感染症のおかげでコンサートは自粛や聴衆の制限が続いていました。そのあいだ、多くの人はイヤホンやスマートスピーカーで音楽を聴いていたはずですが、コンサートホールに座り、身体全体で聴く生の楽器の音の数々は、ちいさなスピーカーで鼓膜だけで聴くものとは100パーセント別な種類の体験です。

オーケストラはどれほど音量が伸びても、まったくうるさくなりません。柔らかな響きは柔らかなまま届き、ときには怖いような激しい音も決して肌を切る刺激的な音にはなりません。ひとつの楽器として考えると、オーケストラは人類の歴史が創りあげた最も多彩で、最も美しく、最も複雑な音色をもつシステムです。

しかも、それぞれの楽器のプレイヤーは一生を演奏技術の習得にかけたプロの凄腕揃いです。モーツァルト以前の時代には、この素晴らしいオーケストラも、王さまや大貴族や大司教しか日常的には楽しめなかった。そう思い起こしてみると、クリスマスのよき日に世界で一番美しい「楽器」によって演奏される名曲の花束を生で聴くことの贅沢さが身に沁みるようです。

では、リラックスして最高の体験を楽しみましょう。

美しい「音楽の時間」の始まりです。

(いしだ いら・作家)

